

線が魅せる、  
濃淡の妙。

# 墨色の世界

南画家

河邊青蘭と泥谷文景

江戸末期、中国より日本に伝来した南宗画(なんしゅうが)から、  
日本独自のものとして発展した「南画」。明治維新以降、新しい絵画  
形態が求められる中、大正期には全盛を迎えました。

今回は大正から昭和にかけて、大阪で活躍した女流画家・河邊青蘭、

高島屋とも交流の深かった泥谷文景の作品による

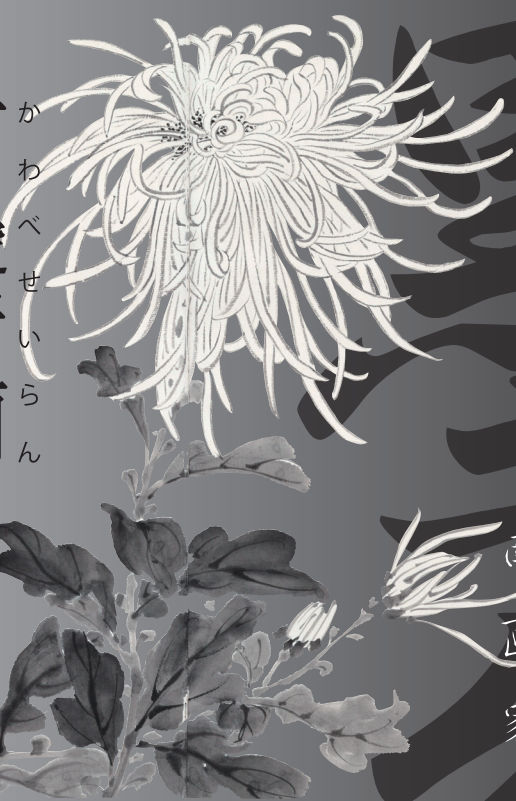
心落ち着かせる南画の世界を、

高島屋での歴史とともにご紹介いたします。

また、深まりゆく秋にも思いをしのばせ、

所蔵作品の中から「秋」を題材とした

絵画もあわせて展覽します。



## 河邊青蘭

かわべせいらん

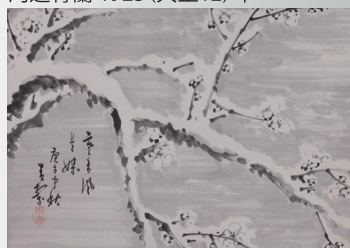
1868年〜1931年

1868(慶応4)年、大阪・南  
堀江に生まれる。幼少期から  
18歳まで橋本青江に師事し、南  
画、詩文を学ぶ。

1926(大正15)年、1927  
(昭和2)年に、大阪・長堀高島屋  
1928(昭和3)年には、東京・  
京橋高島屋で個展を開催。画塾  
では、女性南画家を育成した。



「春秋山水双幅」のうち「梅花里図」  
河邊青蘭 1923(大正12)年

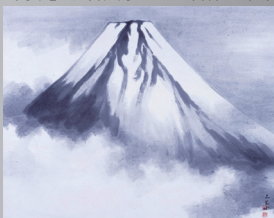


「梅に雪図」河邊青蘭 1900(明治33)年

「菊の図」(部分)  
河邊青蘭 年代不詳



「高砂」泥谷文景 1946(昭和21)年



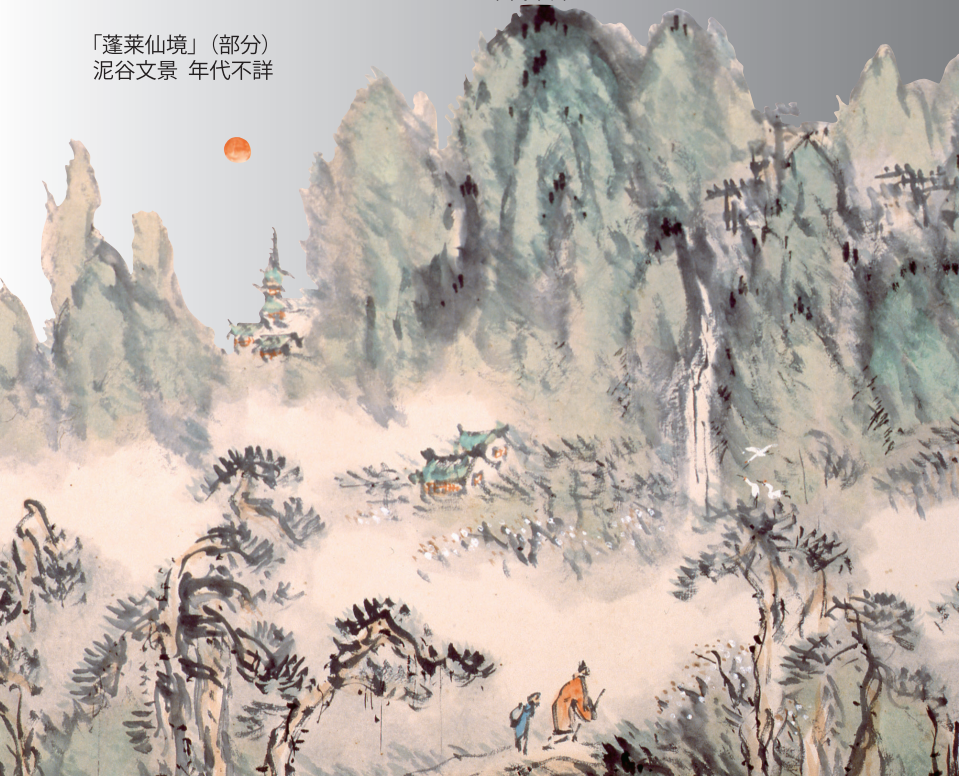
「雲上富士」(部分)泥谷文景  
年代不詳

## ひじやぶんけい 泥谷文景

1899年〜1951年

1899(明治32)年、香川県丸亀に生まれる。11歳で大阪の南画家、姫島  
竹外に師事し、鋭い筆致で独自の  
世界を築き、各界の知遇を得る。  
のちに、高島屋社長飯田直次郎と  
出会い、「その作画を観、画論を聴  
き、その為人を識るに及んで、画伯  
に傾酔するところ深かった」と自ら  
語る飯田の推薦で、1940(昭和15)年  
以降、高島屋で個展を開催した。

「蓬莱仙境」(部分)  
泥谷文景 年代不詳



- 8月25日(月)→10月21日(火)
- 開館時間 午前10時～午後6時  
(最終日は午後5時まで)
- 休館日 日・水曜日 ■ 入場無料
- 高島屋史料館

高島屋史料館

高 Takashimaya

同時開催

面が描く、暖色の優。

秋色の世界